

経済レポート

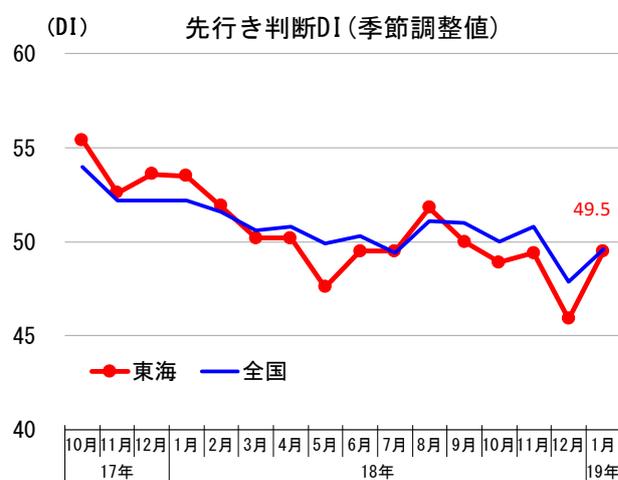
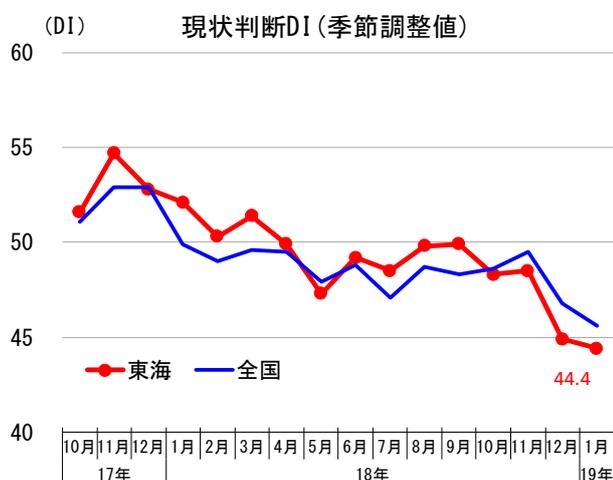
景気ウォッチャー調査(東海地区:2019年1月)

～ 現状判断DIは2ヶ月連続で低下～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 2月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の1月の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-0.5ポイントの44.4と2ヶ月連続で低下した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+3.6ポイントの49.5と2ヶ月ぶりに上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

弱い動きが見られる。先行きについては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、米中貿易戦争など海外要因による停滞が懸念されている。

とまとめ、基調判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、年度末商戦への期待が見られる一方、米中貿易戦争など海外要因による停滞が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。

とまとめている。

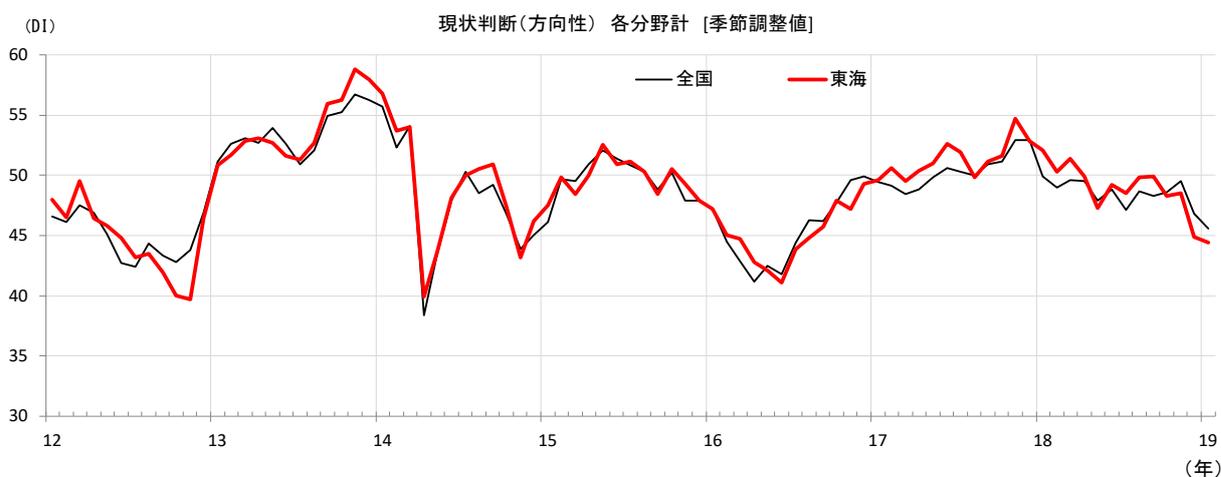
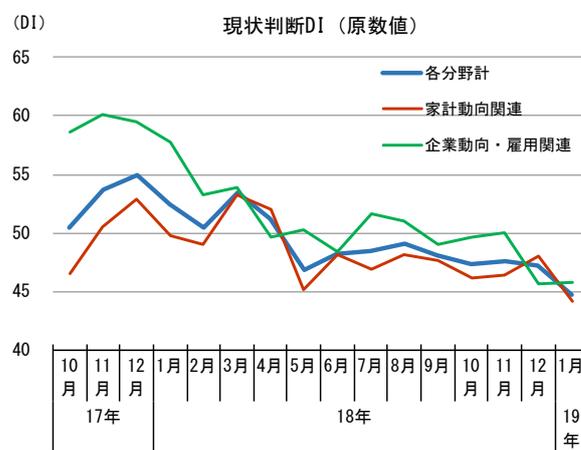
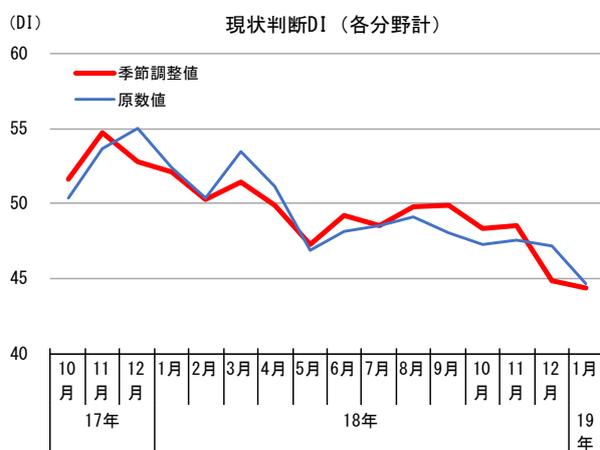
(前月のまとめ)

「緩やかな回復基調が続いているものの、一服感がみられる。先行きについては、海外情勢や金融資本市場の動向等に対する懸念がみられる。」

1. DIの動向

(1) 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI¹(季節調整値)は、前月差-0.5ポイントの44.4と2ヶ月連続で低下した。また、原数値では、前月差-2.5ポイントの44.7と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を9ヶ月連続で下回った。暖冬、インフルエンザの流行、不透明な海外情勢などが景況観の悪化につながった。
- 現状判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-3.9ポイントの44.1と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を9ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI²は、同+0.1ポイントの45.8と前月とほぼ同水準となり、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。

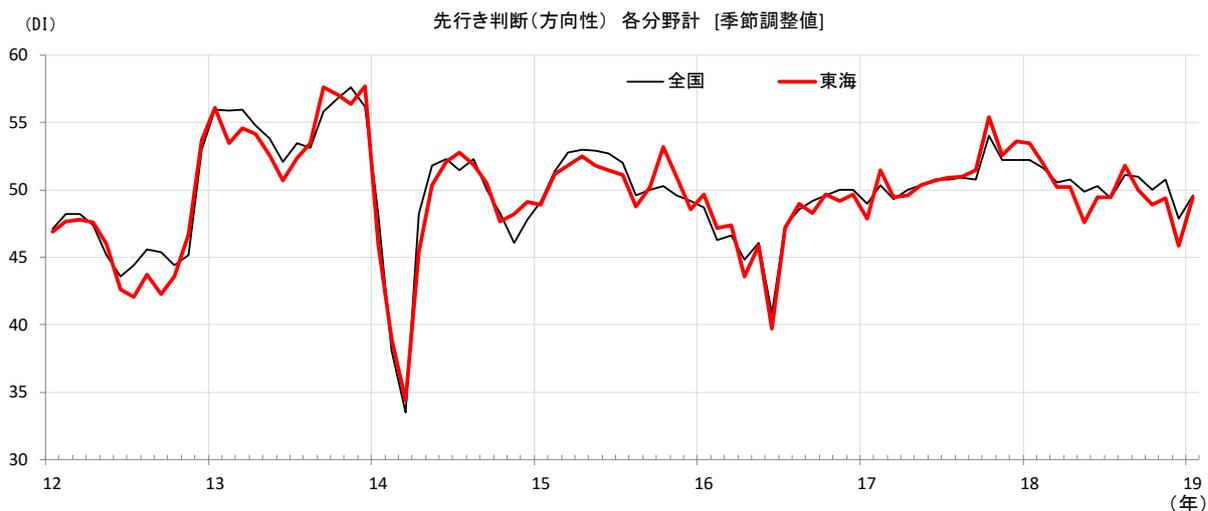
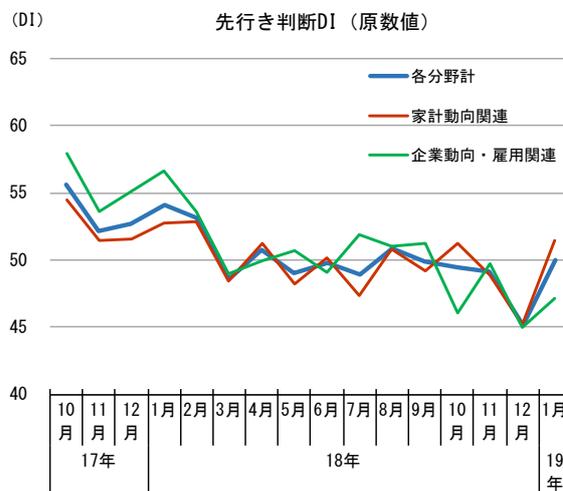
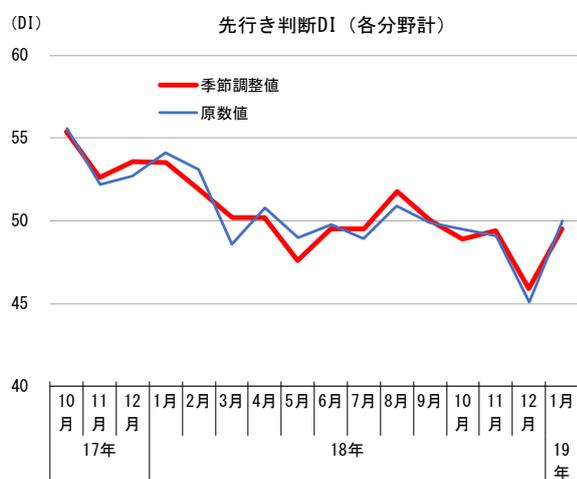


¹ 本調査のアンケート・サンプル総数は229、うち家計関連152、企業・雇用関連77。以下、先行き判断、水準についても同様。

² 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

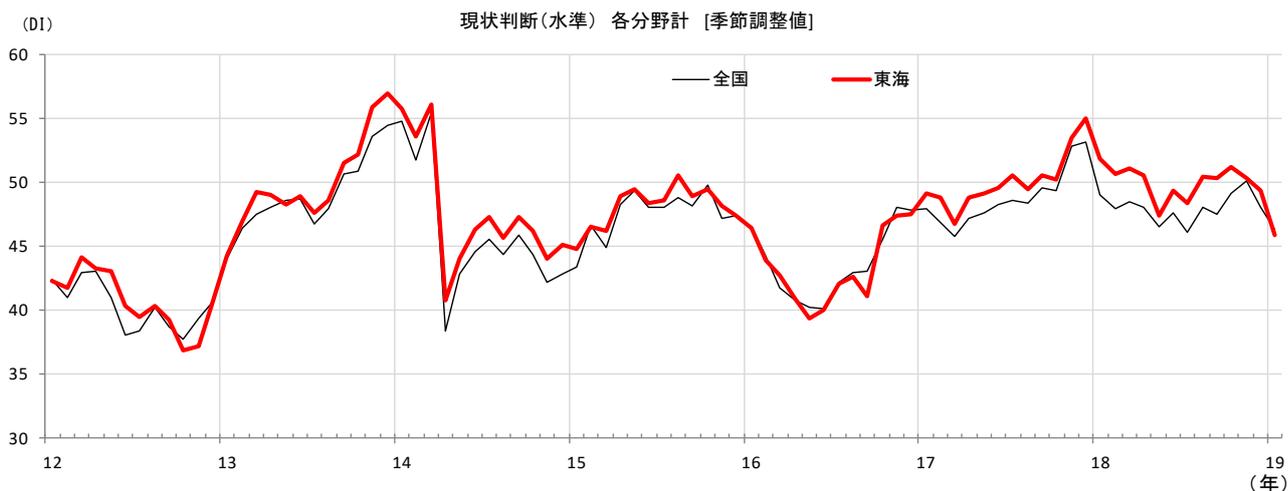
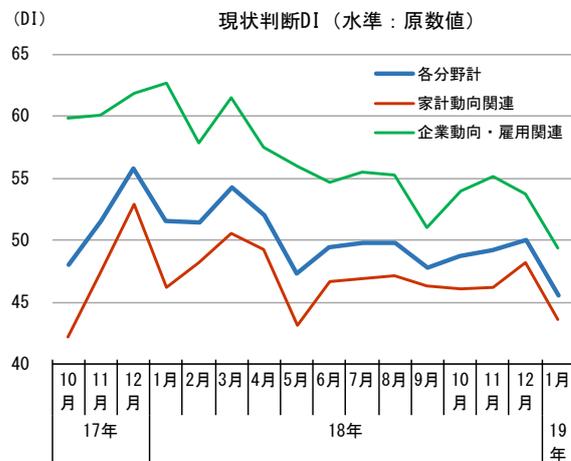
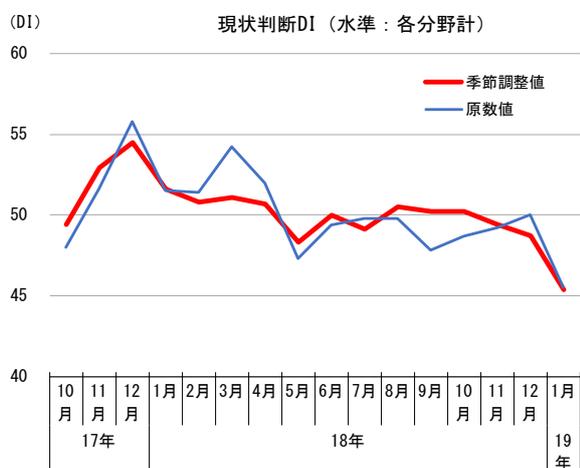
(2) 景気の先行き判断 (2~3ヶ月先の見通し、方向性)

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I (各分野計: 季節調整値) は、前月差+3.6ポイントの49.5と2ヶ月ぶりに上昇した。また、原数値では、前月差+4.9ポイントの50.0と5ヶ月ぶりに上昇した。消費税率引き上げ前の駆け込み需要などへの期待が見られる。
- 先行き判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)D Iは、同+6.3ポイントの51.5と3ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるD Iは、同+2.1ポイントの47.1と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。



(3) 景気の現状判断（水準）

- 現在の景気の水準自体に対する判断D I（各分野計：季節調整値）は、前月差-3.3ポイントの45.4と3ヶ月連続で低下した。また、原数値では、前月差-4.5ポイントの45.5と4ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を下回った。
- 現在の景気の水準自体に対する判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）D Iは、同-4.6ポイントの43.6と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を10ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるD Iは、同-4.3ポイントの49.4と2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を28ヶ月ぶりに下回った。



2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

▶ 年未年始以降、売上げが大きく下がったとのコメントが散見される。

□	一般小売店[薬局](経営者)	年未年始の売出しが終わった1月中旬以降は、極端に客足が落ち、来客数、売上共に激減状態である。客は年未年始の出費が多く余裕資金がない状態と思われる。調剤部門も年末の駆け込みで来客数は落ちている。ただし、インフルエンザの流行で一部の内科医院は活況である。
□	その他専門店[書籍](店員)	年始は天候に恵まれ来客数が多く売上も好調だったが、10日以降は、その反動から客足が落ち着いてきたため、売上を伸ばすことができなかった。
▲	スーパー(店長)	正月明けから、かなり買物にシビアになっていると感じる。週末においても高単価な物やぜいたく品の動きは余り良くない。それよりも通常の物、更に特売の物の動きが良い。そのため買上点数は伸びているが、売上は苦戦している。
▲	スーパー(販売担当)	年未年始で金を使ったためか、客が極めて少なくなっている。
▲	コンビニ(エリア担当)	12月～年末は、比較的来客数、客単価共前年と比べて好調だったが、年が明けてから一気に来客数が減ってきており、前年割れをする店舗が増えている。

▶ インフルエンザの流行が客足を遠のかせたとの指摘もある。

□	旅行代理店(営業担当)	インフルエンザの大流行で、旅行中止や旅行参加人数の減少などマイナス要因が続いている。わざわざ人ごみの多い観光地には行かないとか、密閉空間の多い乗り物のバスでは旅行しないなど、旅行を控える人が多くなってきている。来店数もめっきり減っている。
▲	一般レストラン[居酒屋](経営者)	インフルエンザの流行で客足が若干鈍い。
▲	美顔美容室(経営者)	インフルエンザが流行しており、客だけでなく自分もかかってしまい、キャンセルや休業が多かった。

▶ インバウンドも減ってきた模様だ。

□	百貨店(経営企画担当)	高額富裕層向けの宝飾や海外特選ブランドの動きは好調であるものの、クリアランスセールは、暖冬もあり、重衣料を中心に苦戦し売上が厳しい。インバウンドも為替の影響なのか、それとも米中貿易関連かは分からないが、伸び率が小さくなっている。
□	百貨店(販売担当)	自家需要の動きが鈍く、テナントビルのクリアランスでセール品を購入する客は慎重であった。ギフト需要は高く、成人祝いに購入され高単価商品が稼働している。インバウンドはほとんどなく、観光客も減少している。
▲	百貨店(計画担当)	株価の影響か富裕層の高額品に対する動きが減少してきている。また、中国の法律の改正若しくは円高が影響したのか、インバウンド需要の減少が目立ってきている。

- 改善方向のコメントでは好天を理由とするものが多いが、暖冬によるマイナスを指摘する声もある。

<input type="radio"/>	一般小売店[土産](経営者)	1月中は好天に恵まれ、この地域への来訪客も多く活気があった。客の顔色も良く財布のひもも緩みがちのようである。
<input type="radio"/>	タクシー運転手	今年の正月は天候に恵まれ、初詣の客は好調で買物客も多くまあまあであった。忘年会シーズンに比べると新年会は少なく夜の客は少なかったが、1月の売上はまあまあ良かった。
<input type="checkbox"/>	百貨店(経理担当)	月初めの福袋販売は順調に推移したものの、暖冬の影響もありクリアランスの中心である衣料品の動きが鈍かった。下旬になり冷え込んだため、防寒着の動きが良くなった。
<input type="checkbox"/>	スーパー(商品管理担当)	気温が下がる日が少なく、本来売れるべき商品が売れていない。単価も変化はない。

【企業動向関連】

- 需要の大きな落ち込みはなく人手不足状態が続いている、といった声がある。

<input type="checkbox"/>	化学工業(総務秘書)	平成最後の年を迎え、長く続くが実感がないといわれる現在の好景気についての論評が散見されるようになったが、この謎の好景気は確かに続き、上がりも下がりもしない。そこまでの影響を与えるトピックがない。
<input type="checkbox"/>	電気機械器具製造業(企画担当)	米中関係の悪化、株価低迷などマイナス要因はあるが、今のところ受注状況等に影響は感じられない。国内は人手不足感が続いており効率化のための投資は続きそうである。
<input type="checkbox"/>	輸送業(経営者)	運転手、倉庫内作業員共に募集しても人が集まらない状況が続いている。派遣会社に時給を上げて依頼しても供給がない状態である。

- 海外要因による不調も指摘されている。

<input checked="" type="checkbox"/>	化学工業(営業担当)	中国向け電子材料薬品の需要が若干低迷している。
<input checked="" type="checkbox"/>	鉄鋼業(経営者)	中国の成長鈍化の影響か、機械受注などの減少で先細り感があるためか、新たな受注や販売の話が極端に少ない。12～1月の受注量は季節要因を除いても5%ほど落ち込んでいる。
<input checked="" type="checkbox"/>	通信業(総務担当)	米中貿易摩擦は、我が国への影響が大と報じられていて、余剰となった資材や製品が国内に安く出回ること、企業への影響から個人の先行きへの不安をおおるムードになっている。

【雇用関連】

- 人手不足が続く中、企業にとって採用条件が厳しくなっているようだ。

<input type="checkbox"/>	人材派遣会社(企画統括)	企業の採用ニーズが引き続き強い一方で、求職者の求める年収条件が高まっており、採用には至っていない。
<input checked="" type="checkbox"/>	人材派遣会社(営業担当)	求人数は横ばいでも、成約件数が増加していないため、派遣契約件数は、地域によって減少しているケースがある。

(2) 景気の先行き判断

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

➤ 消費税率引き上げ前の駆け込み需要に期待する声が散見される。一方で、懸念材料ととらえる声もある。

○	商店街(代表者)	そろそろ消費税引上げ前の駆け込み需要が始まる。暖かくなるのも良いことである。
○	百貨店(販売促進担当)	現在は増税発言などで景況感が悪化しているが、3か月後は駆け込み購買が始まり、一時的に良くなると見込んでいる。
○	乗用車販売店(従業員)	消費税引上げ前の最後の決算期になるので、駆け込み需要が期待される。ガソリン価格が安くなってきたこともあり、客は遠出をしているのか、メンテナンスに掛ける金額も上がってきている。少し良い兆しを感じられるようになってきたので、期待している。
▲	一般レストラン(経営者)	ニュースでは消費税増税が確実な方向で現実となりつつある。一般給与所得者にとっては不安が残り、飲食業界にとっては、これからの景気動向についてのマイナス要因として受け止めている。
▲	その他飲食[ワイン輸入](経営企画担当)	消費税増税を控え、買いためするのではなく、むしろ無駄を省こうと思っているとの声が多い。

➤ 改元やそれに伴う長期休暇も期待材料のようだ。

○	コンビニ(エリア担当)	天候が春に向かうのと、改元等によるゴールデンウィークの連休に向けて、人出が伸長する流れに期待がもてる。
○	その他専門店[雑貨](店員)	昭和から平成と今回の改元とは違い、消費マインドは上昇するように思われる。ただし、中国の景気がマイナスに働かなければよいが。
○	その他飲食[仕出し](経営者)	新しい元号が発表されるなど、新たな時代に希望的観測を少しは見いだす。

➤ 海外経済の減速が慎重な見方につながっている。

□	百貨店(企画担当)	中国人旅行者は、来客数は安定的に増えているものの購買単価が下がっており、売上増をけん引していたインバウンドの売上が頭打ちとなっている。国内消費者についても、主力の衣料品、雑貨を中心に売上が前年を下回っており、上昇の気配はみられない。
□	乗用車販売店(営業担当)	消費税の増税を前に駆け込み需要が考えられるが、株価の下落や欧州、中国など世界的な景気減速感が強いため、現状維持という感じである。
□	乗用車販売店(経営者)	人手不足感があり雇用情勢は堅調に推移しそうだが、米中の貿易問題やイギリスのEU離脱問題等もあり、やや慎重にならざるを得ない。

【企業動向関連】

- 人手不足で景気が良い状況が続くという見方や、年度末要因による改善を見込む声がある。

○	通信業(総務担当)	国内の人手不足は、見方を変えれば景気が良いことを意味しているため、この先は良くなると考えられる。
○	電気機械器具製造業(経営者)	取引先で年度末に向けての設備投資やゴールデンウィーク前の展開が良くなるという期待から、やや良くなる。

- 懸念材料として海外要因をあげる声が多い。

□	化学工業(総務秘書)	今後、景気に大きな影響を及ぼすものには米中貿易摩擦と消費税の引上げがあるが、我が国のやんわりとした好景気には、余り影響がないかもしれない。
□	一般機械器具製造業(営業担当)	中国市場の減速が北米の自動車産業の設備投資にもブレーキを掛けており、他に明るい材料も見当たらない。
□	電気機械器具製造業(企画担当)	米中関係やイギリスのEU離脱の影響など海外において懸念はあるが、国内については当面は堅調に推移しそうである。
▲	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	米国と中国の貿易摩擦がしばらく続くので、貿易量が縮小し経済が低迷する。

【雇用関連】

- 人手不足が続く中、雇用のミスマッチが指摘されている。

□	人材派遣会社(企画統括)	年度替わりで求人ニーズが高まるものの、求職者とのミスマッチが当面続くものと思われる。
□	民間職業紹介機関(窓口担当)	求職者数は増加している一方で、働き方としてフルタイムを希望しない主婦層も多く、企業のニーズに合わず就業に結び付かないケースもある。企業への逆提案型での成約も増加してきている。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。